

1. 日 時 令和2年1月30日(木) 19時～
2. 場 所 高知県庁 地下 第3・4会議室
3. 出席者 部会員8名、事務局4名

【議事概要】

(1) 胃がん検診及び大腸がん検診の実績等について

○平成30年度 胃がん大腸がん検診(市町村検診)実績について(資料1)

- ・市町村が実施するがん検診の受診者数、受診率、精検者数、精検結果等について報告。
- ・精度管理指標である「要精検率」「精検受診率」「陽性反応的中度」「がん発見率」について、胃がん大腸がんともに国の許容値を全て満たしていることを報告。

<胃がん検診>P1～6

受診者数や受診率が前年度と比較して減少していることを説明。

<大腸がん検診>P7～12

受診者数は前年度と比較して減少、受診率は増減なしであったことを説明。

○平成30年度 県全体の胃がん大腸がん検診の実施状況調査結果について(資料2)

- ・資料1の実績数に加え、職場で実施される検診等(以下、職域検診という)を含めた県全体の受診率について報告。胃がんは31機関から、大腸がんは37機関から報告をいただく。

<胃がん検診>P2～4

- ・2ページの①～③の表

職域検診の報告依頼項目は、受診者数・要精検者数・精検受診者数・精検結果の4項目であるが、情報提供可能な範囲での報告でかまわないこととしていることから、4項目全ての報告をいただいた機関と、一部の情報のみ報告をいただいた機関の情報をそのまま合算すると、精度管理状況が比較できない。そのため、4項目全て報告いただいた18機関分の実績と市町村検診実績を合算した表①と、2項目(受診者数・要精検者数)の報告をいただいた8機関分に①の表を合算した②の表、受診者数のみ報告いただいた5機関分に②の表を合算した③の表に分けて分析したことを報告。

- ・2ページ下段の表(40歳以上の集計の年次変化を掲載)

胃がん検診受診者数は、29年度より458名増の118,206人。がん発見数は、29年度より15名増の86名。

- ・4ページは、検診方法別(X線・胃内視鏡)の受診状況等の集計結果。

<大腸がん検診>P5～6

- ・5ページの表の構成は、胃がん検診と同様であることを説明。

- ・5ページ下段の表(40歳以上の集計の年次変化を掲載)

大腸がん検診の受診者数は、29年度より3,360名増の145,532人。
がん発見数は、29年度より25名減の164名。

○令和元年度 各種検診の検診費用徴収額調べについて(資料3)

- ・市町村検診時に住民から徴収する自己負担額について報告。
表ページは自己負担額が少ない順に並べた表であること、裏ページは市町村順に並べた表であることを説明。
- ・胃がんは、表の左端、大腸がんは左から3つ目の表に表記。
グレーで着色している箇所が、30年度と変更のあった箇所であることを説明。

(2) 胃がん大腸がん検診精度管理調査結果について(資料4)

- ・市町村及び医療機関に調査を実施した精度管理状況について結果を報告。

(3) その他

○郵送での大腸がん検診の実施状況について（資料5）

- ・26年度から開始した、冬期限定の郵送回収の実施状況について報告。
- ・30年度の提出率は83.4%、一方で今年度の提出率は61.5%となっているが、1月10日現在の状況であり、回収期限の2月27日までの数値を来年度改めて報告することとした。

○地域がん登録の登録状況について（資料6）

- ・地域がん登録の2015年の状況を追加した資料を配布。
- ・高知県の状況は国の精度基準を満たしていることを説明。

○胃がん検診・大腸がん検診指針様式改正について（資料7）

- ・指針様式5号大腸がん検診精密検査依頼書兼結果通知書について、地域保健・健康増進報告の設問追加に伴い、大腸ホリープの大きさ（10mm以上または未満）を問う項目を追加することを説明し、了承を得る。

○大腸がん検診のカットオフ値について（資料8）

- ・個別検診において検査を外注した際のカットオフ値の在り方について議論がなされ、集団検診において採用している200ng/mlのカットオフ値を統一的に用いることとした。